

第一章『快便姫様からの初仕事』

(姫の自室にて)

(ノック音)

入りなさい。

(ドアを開く)

…ふん、相変わらず貧相な体つきですわね。

まあ、貴方はつい最近まで路上暮らしをしていた孤児でしたから、痩せているのは仕方の無いこと。

良かったですね。

貴方の態度次第ではありますが、今後はもう二度と飢えることはないのですから。

姫たるこの私、アリシアに真面目に仕えている限り、きちんと三食食事を摂ることができるのです。

王国の姫たるこの私の慈悲に感謝なさい。

さて…。

薄汚く、ゴミを拾って生きのびてきた孤児…そんな貴方を私が拾った理由は、もう分かっていますね？

そう、貴方を私の召使いにするためですわ。

恥ずかしいことに、私は少々召使いの扱いが乱暴でして…これまで何人もの召使いに逃げられてしまいましたの。

そこで、私は考えたのです。

貴方のように逃げる先もない、逃げたとしても未来のない者を召使いにすればいいと。

分かりますか？

もしここで逃げ出したら、貴方はまた路地裏に戻って暮らすことになるんですよ？

ええ、もちろん貴方が王国の姫であるこの私に尽くす光栄を投げ出すような愚か者だとは思いません。

ですが、どうしても誘いを断りたいと言うのであれば止めることはできません。

私も鬼ではありませんもの。優しく、暖かな笑顔で汚く暗い、ジメジメした路地裏に送って差し上げますわ。

それではもう一度お聞きします。

私の…王国の姫であるこのアリシア様の召使いに、なってくれますね？

……ふむ。

やはり、私の目に狂いはなかったようです。

さあ、こちらへおいでなさい。

…このブローチは、私の召使いである証です。

これを身に着けていれば、王国の中では様々な恩恵を受けることができます。

例えば…そうですね。

王国内の全てのレストランで、無料で食事をすることができます。

それ以外で貴方が気に入りそうなことと言えば…玩具屋や本屋でも、好きなものを好きなだけ貰うことができますよ。

…ふふ。あらあら、そんなに目を輝かせて。

やはり一人で生きてきた孤児とは言えど、まだまだ子供ですわね。

ああ、そうそう。大事なことを言い忘れていました。

これから貴方は、召使いとして休日以外は常に私の傍に居てもらうことになります。

それは眠る時であろうと食事中であろうと、入浴中であろうと変わりありません。

つまり、ずっと一緒というわけです。

もちろんお部屋も、私と一緒にですよ。

…まあ、慣れるまでは少し大変かもしれませんね。

そしてあともうひとつ。召使いのお仕事についてなのですが…。

……うふふ♡

んッ、はあ…♡

失礼、少し、便意を催してきましたわ…♡

さあ、お手洗いに向かいましょう。

もちろん、貴方も私に着いてくるのですよ？ いいですね？

(移動、トイレの前にて)

…さて。

貴方は私が用を足すまで、おトイレの扉の前で待っていてくださいね？

それでは、失礼いたしますね…うふふ♡

(アリシア、トイレの中に入る)

(以降一人言)

んおっ!?!♡

(放屁)

んふっ♡我慢できずにおっきなオナラが出てしまいましたわあ♡くさあい…♡

外にいるあの子に聞かれていませんよね？

うふふ♡あまりに大きな音でしたから、聞こえていたかもしれませんねえ…♡

あっと、いけないいけない。

早くしないと糞が漏れてしまいますわぁ♡

ムチムチデカケツから、おパンティを下ろして…っと。

ふんっ！♡

(放屁)

んおおオツ♡またオナラが出てしまいましたぁ♡

それに、思わずはしたない声も…♡

あぁんッ♡おしりの穴がヒクヒクして、ウンコ出したがってますわぁ…♡

んんっ！♡

(放屁)

ハア…ハア…♡

んふっ、たまりませんわぁ…♡

この、今にもウンコが出てきそうな、感覚っ♡んオオツ♡

(放屁)

あ～っ、もう無理、うんこでるッ♡出るッ♡

ぶっとくてくっさいウンコッ♡

姫が出しちゃいけない不浄のデカ糞ッ♡

でるでるでるでるッ、うんこッ、ブリブリでるうっっ！♡

んオツ、ホオオ～～っ！！♡

(脱糞)

おツ、ほお…っ♡

うんこお…♡ブリブリと、ひり出して…♡

あはああああ…♡

気持ちいいっ、ですわぁ…♡

うふ、うふふっ♡

ああ…まだ出るっ♡

ぶっというんこがモリモリと…♡
あはあ…気持ちいい、最高に気持ちいいですわあ…♡
ケツ穴が、溶けてしまいそうです…♡
んぐツ…はあッ…はあッ…♡
ふう…んッ！♡

(放屁)

あは♡
まあ、この辺りで一旦止めておきましょうか♡
いけませんわ、こんなに気持ちよくなってしまふなんて…うふふ♡
やはりあの子に始末をしてもらおう期待からでしょうか？♡
おっと、こうしてはいられません。いつまでも待たせる訳にはいきませんもの♡

(ドアの外に呼びかけるように)

もしもし？
どうせ、私の声は聞こえているのでしょうか？
トイレの扉を開けて、入ってきてくださいな♡
…ちょっと、何をもたもたしているのですか？
さっさと入らないと、後で酷い目に合わせますよ！
(ここまで)

(主人公がしぶしぶ扉を開ける)

…うふふ。うふ、うふふっ♡
あぁ…んふっ、あははっ♡やっとなて来てくれましたねえ…♡
あらあら、どうしたのですか？
咄嗟に鼻をつまんで♡
私のウンコが、そんなに臭いのですか？
ふふ…♡そんな必死に頷いて…いくら私のウンコが臭いとはいえ、不敬ですよ♡
それに、貴方はこれからこの私のウンコを片付けなくてはいけないのですから、臭いにも
早めに慣れておく方がよろしいかと♡
…うん？
聞こえませんでしたか？
貴方はこれから、私のウンコを、片付けるのです。
ほら…これを見てくださいな♡

私のウンコが便器の中に山盛りになっていますわね？
このままでは流そうとしても…うふふ…♡

(トイレを流すが詰まって流れない)

このように、詰まってしまって流れないので♡
そこで貴方の出番という訳です♡
貴方のお仕事の内容については、まだ教えていませんでしたよね♡
貴方のお仕事、それは、私のウンコを片付けることです♡
そのためにい…ほら、特注の道具…確か、東洋の国の…お箸でしたか？ も用意してあります。
さあ、コレを使って、さっさと便器のウンコを解体し、流せるようにしてくださいませ♡
…それとも、召使いがご主人様の命令に従わないつもりなのですか？ うふ、うふふっ♡

(主人公が箸で排泄物を処理し始める)

あら。ちゃんと私の指示に従ってくれるのですね♡
とても嬉しいですわ…ええ、本当に♡
あん♡そんな乱暴につつき回さないでくださいまし♡
姫のウンコはデリケートなのですから、もっと丁寧に感触を味わいなさい♡
ぶっといウンコでしょう？♡私のウンコは、とっても太くて長いのです♡
それ故に…こうやって箸でつまむのも一苦労なのです…♡
うふふ、ウフフッ♡
繊維質で健康的なウンコですねえ？♡
ウンコを箸で千切ると、ウンコとウンコが糸を引いて離れて…♡
あらあら、お上手♡綺麗に解体できてますよ♡
さあ、あと少し…。
うふふ♡うふっ♡ふふっ♡
ああんッ！♡
もう我慢できませんわッ！♡

(便器に再び尻を向けるアリシア)

ほおら、私のケツ穴をご覧ください♡先程からウンコがしたくて、ずっとヒクヒクしてま
すの♡
ふふっ、実はまだまだ出し足りないのです♡

貴方が頑張って私のウンコを解体する所を見ていたら、ケツ穴の疼きが止められなくなっ
てしまいましたッ♡
んっ、ふう…ッ！♡

(放屁)

うふふ…ねえ？♡
大変だけど我慢すればすぐに終わるとか、思っていたよりすぐ終わったとか、そんなこと
を考えていましたよね？♡
ぎーんねん♡貴方のその考えは甘いですよ♡
先程出した極太の一本糞…それと同じくらい太いものがまだ数本…お腹の中に残っていま
す♡
ですからあ…うふっ♡
貴方のお箸の上に、思いっきりブリブリと出してあげますね♡
うっ、ふううんッ！♡

(放屁)

あ～ッ、出ますわあ…ッ♡
私のぶっといウンコが、ぶりぶりとっ！♡
ほおら見てください、おケツ穴がゆっくり開いておりますねえ♡
先ほどから屁もブゥブゥと出ておりますが…うふっ♡
糞に押し出されてガスが噴出しているのですよ♡
んっ、おおッ…♡
さあ…準備は良いですか？♡
出しますね？♡
出してしまいますね？♡
貴方の目の前で、姫が絶対に人前で晒してはいけない醜態を、晒してしまいますね？♡
うふふ、うふふふ！♡
ふうッ…んンン～～ッ！！♡

(脱糞)

おほおおおおおお～～～ッ!?♡
うんこおッ♡ウンコがブリブリ出てますわあ～ッ♡
やあんっ、恥ずかしいっ！♡私のケツ穴で熟成されたクソが、ジロジロと見られています

う！♡

箸の上にモリモリと、ウンコが積み重なってますわぁッ！♡

うふふ、うふふふふっ♡ あんッ、ほおら、まだ出ますわよおお~~~~ッ！♡

(脱糞)

んほっ、いぐっ、イグう〜っ！♡

ウンコがブリブリとケツ穴コスってえッ♡

ひり出しながら、ケツアクメキメちゃいますうッ！♡

ふンンンッ！♡

おほっ、うおおおお!!♡

ほおら、お姫様の貴重な脱糞アクメですわよおッ♡

ほおら、もっと見てくださいますい〜っ！♡

ああんッ！♡ うんこでッ、イツぐう〜ッ!!♡

(絶頂)

ふんぎゅうううっ!?!♡

おほっ、おほおおお~~~~ッ!!♡

(脱糞終了)

はひ…はあ…はあ…ッ♡

うふ…うふふっ♡

お箸、ウンコに埋められて動かなくなっていましたね♡

ずっしり、どっさり♡私のウンコがデカくて、重すぎるせいですね♡ごめんなさい♡

うふふ…うふ、うふふふふ！♡

ああんッ、見てくださいますえ…私のウンコが、山盛りになって便器に鎮座しておりますわ…♡

はあ…♡

こんなにいっぱい出したのは久しぶりですわ♡

スッキリして、いい気分です♡

…ん〜?♡

ねえ貴方、ソレはなんですか?♡

あら…あらあらあらあ〜?♡

うふふ、うふ、うふふふ！♡

私の脱糞姿を見て興奮してしまったのですね？ この変態ッ！♡
うふふ…これは罰が必要ですね♡
あら、そんな必死に首を横に振ってしまって…うふ、可愛らしいこと♡
ねえ？
私、貴方のことを気に入りました♡
糞に興奮する変態の召使い…♡
そんな貴方に、私の寵愛を捧げて差し上げます♡
特別に、これから貴方のことを『坊や』と、そう呼んであげましょう♡
幼い貴方にはぴったりのお名前でしょう？♡
うふふ♡嬉しいでしょう？♡嬉しいですよ？♡
ほら、嬉しいなら…うふふふッ♡
その場に跪き、私に頭を下げなさい♡
ほら早く、早くしなさいッ！♡

(主人公、その場に跪く)

…そうっ、いい子です…♡
そのままですよ…そのまま…♡
んっ、はあ…ッ！♡

(放尿開始)

ぷっ、あははははッ♡
ほおらっ！♡私のションベンを全身で受け止めなさいッ！♡
うふふふふっ！！♡
んああんっ、おしっこ、たまりませんわぁッ！♡
坊やの頭にジョボジョボションベンぶちまけるの、最っ高ッ♡
ほうらッ、ちゃあんと受け止めてくださいましっ！♡
ああ…んふっ♡気ン持ちいい～～ッ…！♡

(放尿終了)

はあ、はあ…あらあら♡
坊やの体がビショビショになってしまいましたねえ♡
ねえ坊や♡
私が、これから貴方のことを私好みに躑けてあげますわ♡

私の召使い…いいえ、糞奴隸として、立派に育て上げて差し上げます♡
立派に成長できたのなら、その時には…♡うふふ、貴方の身に余る報酬を与えて差し上げ
ましょう♡
だから、楽しみにしててくださいね…？♡
うふふふふ…♡

第二章『快便姫様のガーデニング』

(主人公の自室、ベッドにて)

おはようございます、坊や♡

あらあら、そんなに驚いて飛びのかなかなくてもよいではありませんか♡

私、説明しましたよね？

貴方はこれから常に私の傍に居なくてはならないと…。

昨日は坊やが初めてお仕事をする日でしたから、自室にて一人で寝かして差し上げましたが…本来はこのように、一緒のベッドに潜り込んで、共に眠るものなのです。

…どうしてそんなことをする必要があるので、ですか？

決まっています♡

夜中に糞を催した時のためです♡

共に眠らなければ、私は貴方をわざわざ呼びに行かなくてはなりません♡

主であり姫であるこの私に手間を煩わせ、糞を我慢させる。

そんなこと、あってはなりませんよね？

ひょっとしたら呼びに行く途中で我慢できずに糞を垂れるようなことになってしまうかも…んんッ！♡

(腹の音)

(放屁)

うふうっ♡

あらあら、そんなお話をしていたら…私、催して参りました♡

さあ、早く起きてください。お仕事の時間ですよ♡

…んっ！♡

(放屁)

んふ♡さあ早く♡

早くしないと、漏れてしまいますわあ♡うふふ…♡

(数時間後、城の庭園にて)

ふんふふふーん♪

お散歩、楽しいですわねえ♡

良い天気ですから、お庭を歩き回り、色とりどりの花々を愛でるだけで、こんなにも気持ちが良い…。

お散歩を終えたら、ティータイムにしましょう。

庭に専用の場所があります。

お花に囲まれて、のんびりとそこで過ごすのも悪くないでしょう。

もちろん、坊やも一緒に、ね？

あ、そうそう。お花と言えば…うふふ♡

ねえ坊や？

私も、お花のお世話しているんですよ？

もちろん、水やりや手入れのほとんどは使用人にやらせていますが、ほんの少しだけ、私が工夫して、特別な育て方をしている区画があるのです。

本当はごく一部の人間しか知らない場所なのですが…特別に、坊やにも見せて差し上げますね♡

さあ、こちらへいらして…うふふ♡

(姫の庭園内区画にて)

さあ着きましたよ。

ここが、特別な育て方をしている区画です♡

よく見てごらんなさい？

とてもよく色付いて、美しく咲いているでしょう？

…うん？ どう育てているのか、気になるのですか？

そうですね…特別に、教えてあげましょう。

ここのお花達は…うふっ♡

文字通り、私からの愛を受け取って育っているのですっ♡

私からの愛…それは、貴方がよく知る、アレですよ♡

あらあら、うふふ、気が付きましたか？

そうです♡

ここのお花達は…私のウンコを肥料として使い、おしっこをお水として受け取っているおかげで、立派に育っているのです♡

あらあら、あからさまに嫌そうな顔をなさって…うふふ…不敬ですよ♡

さあて、ちょうどいいですし、今日はこのお花たちのお世話をいたしましょうか♡

坊や、よく見てなさい♡

これが私の、アリシア流のお花の育て方です♡

スカートをたくし上げ、おバンティーをずらして…うふふ♡

そお、れっ！♡

(放尿)

んふっ、んんっ♡ああんッ！♡

うふふ、お外でおしっこ、気持ち良いですっ♡

見てください坊や♡おしっこが太陽に照らされキラキラ輝いて、虹を咲かせておりますわ♡

はふっ、んっ、おおッ…♡

ほおらお花さんたち～、お水ですよ～…うふふっ♡

(放尿終了)

んっ…はぁぁ…気持ちよかったです…♡

あまりに気持ちいいものですから、思わずおしっこ以外のお汁も垂れてしまいました♡うふふ…♡

ほおら坊や、お花を見て御覧なさい♡

私がおしっこをぶっかけて差し上げたお花達、とても嬉しそうです♡

でも、おしっこだけだと足りませんよね？♡

だから、こうして、お花たちにお尻を向けてえ…♡

ふんっ！♡

(放屁)

あはっ、私のそよ風がお花を揺らしていますっ♡

さぁ、これから私の栄養たっぷり肥料ウンコ、お花にたっぷり振りまいて差し上げます♡

ぜえんぶ、受け取ってくださいまし♡

んんんっ！♡

(放屁)

ふうっ、う～んっ！♡

(放屁)

はぁ…んッ！♡あはぁぁ…♡

良いです、降りてきましたっ♡

さあ、準備は万端ですっ！♡
坊や、よおく見ておきなさいっ！♡
この私が、花に向けて糞を放つその姿…っ！♡
しい～っかり目に焼き付けて、生涯のズリネタになさいっ！♡
ふんッ！♡ンンンンンン～～ッッッ！！♡

(脱糞)

んはあ…♡
お花に私のクソが降り注いでおりますわああ～っ♡
あはっ、うふふふっ！♡
可愛いお花達が、私の栄養たっぷりの肥料を受け止めて、汚されていく…うふ、うふふ！
♡
放物線を描いて飛び出していくウンコを見ていると、とても満ち足りた気分になりますわ
あっ♡
ああんっ！♡
んふっ、まだまだでます…っ！！♡

(脱糞)

あああっ、たまりませんっ♡
野グソ、野グソっ！♡
野グソするの、気持ちいいですわああっ！♡
おほっ、うほおおおお～～～ッ！！♡
さあお花たちッ、私の糞を受け取る光栄を、悦びを、嘔み締めなさいっ！♡
うふ…うふふふっ！♡

はあっ、ふっ、うん…っ！♡
さあ…そろそろ終わりに致しましょうか。
最後に…ふンンっ♡

(最後の一欠片を脱糞)

はあい、これでおしまい♡
栄養満点のきつない肥料を食べて、すくすくと美しく綺麗に育ってくださいね♡
…うん？

うふ♡
あらあら、ここにも、元気いっぱいなお花が一輪…♡
どうしたのですか、坊や♡
おちんぼ、ビンビンにおっ立ててアピールして♡
まさか、お花に嫉妬してしまったのですか？♡
元気にビクビク震えて、『ボクにもお水と肥料ちょうだぁ～い♡』って、まるでそう言っ
てるようです♡
…あら、あらあらぁ～？
そんなことない、ですか？♡
うふふ、うふふっ！強がりな坊やですね♡
そんなに勃起しているのですから、言い逃れはできませんよ♡
貴方は、私の糞と小便に興奮したのです♡
その事実は変わりません♡
とんだ変態さんですねえ♡
うふ、うふふふ！まあ、でも…可愛い坊やのおねだりです。
私も鬼ではございません。
特別に、貴方にもお水くらいなら恵んでさしあげましょう♡
ほうら坊や、ズボンとパンツを下ろして、元気なお花を見せてくださいな♡

(脱衣)

うふふ、うふ♡…あらあらぁ？♡
すごいことになっていますねえ？♡
おちんぼ、元気いっぱい♡
でも…ぶっ♡
フル勃起の状態でも、ちっちゃくて、皮かむりで…うふふ、かわいい子どもおちんぼです
ね♡
こんなモノじゃ女は絶対に喜ぶことはできませんね♡
ですが…うふ♡
優しいアリスア姫は、そんな惨めな坊やのおちんぼを、特製のお水で育てて差し上げます
わ♡
さあ、行きますよ…。
覚悟はいいですか？♡
私のおしっこ、ちゃあんと受け止めるのですよ、いいですね？♡
んっ、はぁぁぁ～んっ♡

(放尿開始)

ほうら、たっぷりお水を浴びなさいっ！♡
あはっ♡私のおしっこを浴びて、嬉しそうに跳ね回っておりますわねえ♡
あはあんっ！♡もうっ、そんなに喜ばないでくださいなッ♡
はしたないおちんぼですねえ♡濡れてしまうではありませんか♡
うふっ、うふふふふ…ッ♡

(放尿終了)

あっ…と、うふふ♡
先程出したばかりでしたから、あまり沢山は出ませんでしたね。
んふ♡私のおしっこ、温かくて心地よかったですか？♡
いつまでもそんな惨めな子供おちんぼでは困りますから、これからは私のお水を毎日必ずおちんぼに浴びてくださいね♡
…ん？
聞こえなかったのですか？
これから毎日、私の小水をおちんぼに浴びろと言ったのです♡
毎日一回は必ず、排便の際に貴方のおちんぼをおしっこで濡らして差し上げますから、そのつもりでお願いしますね？♡
ほうら、返事は？早くお返事してくださいまし♡
ありがとうございます姫様と、そう言ってご覧なさい？♡
…よろしい♡
はあ～、たくさんおしっこをしたら、喉が渇いてしまいましたわ♡
ちょうどいい時間ですし、ティータイムと致しましょう♡
確か良い茶葉が入っていたはずなので、貴方にも飲ませて差し上げますね♡
さあ、早く行きましょう？♡うふふふ…♡

第三章『快便姫様と城下町デート』

(姫の自室にて)

はぁ～…ムカつきますわ…。

お父様の命とはいえ、あのような醜い男が私の許嫁になるなど…。

見てくださいこの指輪！

あの王子から貰ったものですが、センスの欠けらも無い酷いデザインですわ。

それに、指輪を渡す時に私の身体をジロジロと見てあからさまに興奮していました…。

由緒ある我が王家に迎え入れられるだけでも光栄だというのに、なんという態度でしょうか。

あんな男と将来を共にするなど、到底考えられませんわ。

…この気持ち、いつものアレをしなくては晴らせませんわ。

ねえ坊や、貴方もそう思うでしょう？

…ああ、そういえばまだアレについてお話していませんでしたね♡

私、たまにお忍びでお城の外…城下町に遊びに出るのです♡

普段の豪華なドレスを着ていなければ、案外皆様にはバレないものですよ。

そして、買い物をしたり、城では食べられない下品な料理…露天で売られている食べ物を、買ったその場で食すのです♡

そして沢山食べたら…ウフフ♡

ま、それは後で教えて差し上げます♡

さあ、支度をなさい♡

城下町に出かけますよ、坊や♡

(城下町にて)

ふうん、最近はこんなものが流行っているのですね。

んふっ、なかなか可愛らしいではありませんか♡

うふ、うふふふふ…っ！

楽しいですわねえ、坊や♡

普段来られないからこそ、お忍びでのお買い物はとても楽しいものです♡

…おや？ あれをご覧なさい、坊や♡何やら大きな人集りができていますね。

何をしているのでしょうか？ 行ってみましょうか♡

(城下町広場にて)

ほう、これは…！

私、知っております♡

大食い、という遊びでしょう？

巨大な食器に料理を山盛りにし、それを早食いする…うふ、なんて下品な遊びなのでしょう！

城では絶対にできませんわぁ…！

ねえ坊や、私、アレをやってみますわ♡

大丈夫、こういう時のために目元を隠す仮面も用意しておりますの♡

だアレもアリシア姫だとは気付きませんよ♡

さぁ、行きましょう！受付はあそこですね…！

(一時間後)

はぁ、案外つまらないものなのですね、大食いは。

誰も彼も私の記録に届きませんでしたわ…。

量も思ったより少なくて、ついおかわりをしてしまったくらいです。

ですが、気晴らしにはなりました♡

んんっ…うふ♡

あれだけ食べれば、きっとどデカイモノもひり出せそうですし♡

ウフフ…ねえ坊やぁ？♡

私がお忍びで城下町にやってくる一番の理由…教えて差し上げます♡

そ・れ・はぁ…♡

(囁き)

野グソを、するためですわ♡

人気の無い路地裏で、ウンコをブリブリひり出して、それを見られるのではないかというスリルに浸る…♡

気持ちよくて、気分が高揚して…♡

人がいないか常に気を張って警戒しながらも、催してしまったら構わず堂々と…あぁ、考えるだけでゾクゾクしてしまいますわっ♡

そして、すっかりしたら後始末はせずそのまま放置。

路地裏がウンコまみれになって、誰にも見せられないような酷い有様になった時は…もうたまりませんっ♡

それを想像すると、子宮がきゅんきゅん疼いてしまうのです♡

うふ、ウフフフフ！♡

(囁きここまで)

…ねえ、坊や♡
おチンポ、勃たせておりますわね？♡
想像したのですか？
姫様の、野グソ姿♡
うふふ…♡仕方ありませんね…♡
今夜は特別に、私の野グソを見てよろしいですわ♡
ただし、このことは誰にも口外してはなりませんよ？♡
もちろん、お父様にも。
いいかしら？♡
うふ、そんなに必死に頷いて、カワイイ坊や…♡
…さあ、あの路地の奥へ向かいましょう？♡
きっと、私の最高の姿が見られることでしょう♡

(路地裏にて)

ふうーっ、ふうーっ…♡
はあっ…はあっ…ふう〜っ…！♡
し、失礼。少々興奮しすぎて…息が、荒くなってしまいましたわ…♡
ぼ、坊や、ほらこっちにおいでなさい。
私の野グソ、もっと近くで、見にいらっしやい♡
い、今からここで、糞をいただきますから…っ♡
んひっ♡

(放屁)

や、ヤバい♡
おしりの穴をウンコが突っついて、早く出てきたいと、ケツ穴をくすぐってきますわっ♡
人気のない、路地裏でっ♡
高貴なこの私が、下品に糞をひり出すのです…っ！♡ ああっ、興奮してしまいますっ♡
興奮のあまり、お腹に力が入れば…んっ♡

(放屁)

おひっ♡ も、漏れてしまいましたっ♡
屁が、思わず出てしまいますっ♡

うふふ…♡

ぼ、坊や…ね、せっかくですから、貴方に役目を与えて差し上げます♡

私の、お、おパンティを…下ろしなさいッ！♡

は、早く脱がしなさいっ！♡何をためらっているのですッ！♡

私、もっともっと興奮したいのですっ！♡

糞ヒリのために他人におパンティを脱がせてもらう…あぁっ、なんと背德的なんでしょう

♡

ほら、坊やッ！♡早く、早く私のおパンティを下ろすのです！♡

そ、そうです、私のお尻に顔を近づけ、ゆっくりと…！♡

ふ、んんんうっ！♡

(ゆっくり下着を下ろす)

(放屁)

～～ッ！♡

おっ、ほおお…！♡

んう…っ！♡い、いきなりはしたないおならを、坊やの顔面にぶっかけてしまいましたわ

お…ッ♡

うふ、臭そうに顔を歪めて…あぁ、たまりませんわ♡

いいですわよ坊や、もっと強くっ♡もっと大胆におならを顔にぶっかけて差し上げます

ッ！♡

おっほおおお～～～ッ！！♡♡

(放屁)

うふふ…もうっ、臭いで気絶してはなりませんよ？♡

これからはもっとくっさいモノを、ぶちまけてしまうのですから♡

さぁ…坊やは人が来ないか、周囲をよおく見張っててくださいまし♡

私の野グソを見つめるのもいいですが、夢中になるあまり人が来ているのに気付かなかっ

た、なんて間抜けなことはしないでくださいね♡

…と、失礼…また、オナラが出てしまいそうですわっ♡

おっほおッ！♡ふっ、ふう～～～…ッ！♡

(放屁)

んっふううううううううッ！！♡

あああッ、もう限界ですわッ！♡
お尻のカッ、糞が漏れないように閉めてたおケツ穴ッ、今緩めますよっ！♡
んううっ、見ていなさいッ！♡
姫が、糞をひり出すところを…しっかりと、その目に焼き付けるのですッ！♡
あはあああんっ！♡ケツ穴からっ、ウンコが這いずり出てしまいますのお〜〜〜ッ！！♡
んはあっ、ふおおお…ッ♡
クソッ、でるッ…ウンコ、ぶりぶりでちゃいますうっ！♡
おおおおおおおんッ！！♡♡

(脱糞)

はあああああ〜〜〜…、おホオ〜〜〜オ…ッ！♡
フンッ！♡フンッ！♡
んほおおおお〜〜〜〜〜ッッ！！♡
ぐうっ、おオ〜〜〜〜〜ッ！♡
極太のウンコが、ひりでていますっ！♡
ド下品に、ぶりぶりと出てしまいますわあ…っ！♡
んひいっ、け、ケツ穴が、擦れてえ…ッ！♡
と、止まんない♡腹の中のクソが、一気に…ッ！♡
おほおおおお〜〜〜〜〜ッッ！！♡
あっ…あはあっ♡あひいい…ッ♡ぎもち、いいですわああ〜…ッ♡
ふうーっ、ふうーっ…うふ、うふふッ！♡
あははあ〜っ、あッ、んんんッ！♡

(足音)

ッ!?♡
ちょっ、待ってっ！♡ふうッ、ふうーっ…！♡
まさか、人来て…あっ、む、無理っ、ウンコっ、止まらな…っ！♡

(足音近づく)

坊やっ、お、奥ッ！♡私は、路地の奥に逃げますわよッ！♡
なっ、クソひり中でも構いませんッ！♡
だっ、出しながら、逃げるのですッ！♡
んオオッ！♡早くしないと、人ッ、来てしまいますわあああっ！♡

(路地の奥へ逃げる)

やっ、やだっ、ド下品にクソひりしながら走るの、頭おかしくなりそうですッ！♡
んおおおおお〜〜〜ツツツ！！♡
いぐっ、イギますわぁっ！♡クソひりながら、走りながらアクメしてしまいますわぁ〜〜
っ！！♡
ケツを左右に振って、糞を撒き散らしながらッ、クソアクメえ〜〜〜ッ！♡
んッ、おッ、ほおおおおお〜〜〜〜〜ツツツ！！♡

(絶頂)

あっ、んひえっ、ほへへええっ…！♡
い、イッたのにつ、止まりませんん…ッ！♡
私のウンコ、止まりませんわぁっ！♡
イキ潮とくっさい糞をだだ漏らししながら走るの、気持ち良すぎましゅわぁあおおおっ♡
んひっ、まっ、また絶頂しちゃいますッ♡
あっ、足ガクついてッ、あへっ、あひいっ♡

(足を止める)

は、へへえ〜…んほっ、ほへえ〜…ッ！♡
んお、ほひいい…ッ！♡
もっ、動けないい…♡
見られちゃうっ、野グソ好きの不潔姫だって、バレてしまいますわぁ…ッ！♡
おほっ、お〜っ！♡
お、終わるっ、姫としての、私の人生…ッ！♡
こ、こんな路地の奥でッ、野グソしながら終わるなんてええっ、屈辱ですわぁっ♡
でもっ、んツツ、ほおおおおお〜〜〜〜〜ツツツ！！♡♡

(失禁)

(絶頂)

おひいい…ッ♡ほっ、ほひっ、ほひひい〜っ…♡
それが、たまらなく、イイいい〜…ッ！！♡
ふんっ、おおおツツツ！！♡

(息んで最後の糞をひねり出す)

おっ、おっ…ッ！♡んぐ、ふひ、フヒヒッ！♡

(放屁)

んはあ、はあッ…！♡

見られて、しまいました…ぜんぶ、ぜんぶッ…！♡

あ、あれ？

誰も、いない…？

そ、そういえば坊やも、いないような…？

(足音)

んひっ!?

あっ、な、なあんだ、坊やですか…。

驚かせないでくださいまし…。

…あっ。

ひょ、ひょっとして…坊やがあの足音の主を追い返してくださったのですか？

慌ててクソひり出しながら逃げることしか出来なかった私のために、冷静にそのような判断を下すなんて…！♡

(突然抱きしめる)

ん〜ッ、ちゅっ！♡ちゅっちゅっちゅっ！♡

ん〜っ、かわいい坊やッ！♡

ちゅっちゅっちゅっちゅう…ッ！♡

(離れる)

あ、あはっ♡申し訳ありません、つい勢い余って…！

でも、それぐらい嬉しかったということです♡

(囁き)

ねえ、坊や…♡

何か欲しいものはございませんこと？♡

なんでも言ってくださいまし♡

そう、なんでも、いいのです♡

この大義の恩に、私にできることであれば何でもして差し上げますわ♡

うふふ…ッ！♡

あら、なにか思いつきましたか？♡

さ、なにが欲しいのか、言ってご覧なさい？♡

……まあ！

まあまあまあ♡

そんな願いをするなんて、なんとかわいいのでしょうか♡ うふふ…いいですわ♡

いいですわよ、坊や♡

さすがは私の従者♡毎日のクソ処理と小便水やりの甲斐がありました♡

しかし、まさかこんなにかわいいおねだりをするなんて…♡

これはたっぷりと褒美を与えねばなりませんね♡

うふふふふ…♡

第四章『快便姫様のご褒美』

(深夜、姫の自室にて)

ほうら、おいでなさい…♡

うふふ、どうしたのですか？

毎晩の添い寝など、今に始まったことでは無いでしょう？♡

…ん～？

やっぱり、ご褒美はいらない？

普段通りでいい、と…。

ぷっ、ふふっ、うふふふふっ！♡

ダメですわ坊や、それでは私が満足できませんもの♡

遠慮なさらなくて♡ほら、おいでなさい？♡

今夜はたっぷり、かわいがって差し上げます♡

坊やがおねだりしたご褒美…♡

『チンポのムズムズをどうにかして欲しい』というお願いは、ちゃあんと聞き届けました♡

ふふ…毎日、常日頃から私の傍に待機させているのですから、お金玉に溜まった濃ゆう～い子種をピュッピュすることもできず…たまったイライラを発散することも出来ず、悶々とした日々を過ごしていたのでしょうか？

オマケに下品にブリブリウンコを垂れ流す私の姿を目の前で見せつけられ、毎日必ずホカホカのお小水をおチンポに浴びせられる日々…。

んふふっ、とても辛かったでしょうね♡

よく頑張りましたわ坊や♡今夜はたっぷり可愛がってあげますから、日頃の欲求不満を解消してくださいまし？♡さ、こちらです、坊や♡

私のムッチムチのエッロ～い身体に抱きついて、情けなく甘えても良いのですわよ？♡

ほうら、おいでなさいませ？♡

そんなに緊張して…ふふ、可愛らしいですわね♡

いつもは生意気で反抗的な目をしているのに、いざこうして雌が目の前で手をこまねいていると、尻尾を巻いて小さく縮こまってしまうなんて…まるで怯えた子猫のよう。

ほうら、怖くないですわ～…♪♡

このでっかいお胸に、頭を預けてくださっても良いのですのよ～…？♡

ほうら…坊や、いらっしゃい？♡

(抱擁)

ぎゅッ、むうう〜〜ッ！♡
うふふ♡思いつき抱きしめてやると、乳肉の狭間でもがくことしかできないの、とっても可愛らしいですよ〜♡
ほうら、少し抱きしめる力を緩めてあげますから顔を上げなさい♡
そうそう、上手…♡
んっ、ちゅっ、ぢゅうう〜…っ！♡
れろれろ…ちゅばちゅぶ、れりゆるる…ッ！♡
ふはあ…ッ！♡
んふっ、うふふふふっ…！♡
あ〜ッ、もう無理♡
ムラつき止まりませんわあ♡
ねぇ坊や？ どうして私が貴方を召使いにしたのか、分かりますか？♡
…そう、簡単には逃げない召使いが欲しかったからです♡
でも、それはあくまでもお父様たちを納得させる建前の理由♡
本当はあ…んッ！♡

(抱擁を強くする)

(激しくキス)

ちゅぶちゅぶっ、れりゆれりゆ…ッ！♡
むっちゅうう…！♡
ホンットは、坊やが可愛くて可愛くて仕方なかったからなのですよわああ〜っ！！♡
ん〜ッ、ぢゆるるるるッ！♡
ふあっ、はっ、はああっ…♡
一目惚れ、でした♡
道の端っこに座り込んだ貴方はッ、みすぼらしくて汚らしい子供で…♡
でも、幼さや世間知らずさが可愛くって堪りませんのッ！♡
そんな子供を私の汚物で汚してやりたい…！♡
性癖ゆがませて、私以外の女でシコシコ出来ないよう調教してやりたい…！♡
そんなドロドロとした醜い独占欲と性欲が、いつも私の中で渦巻いたのですよおっ！♡
ほうら坊や、チンポだせっ！♡ベロキスでビンビンになった変態ガキチンポ出せっ！♡

(脱衣)

ふんっ、相変わらずちっさいナメクジのような包茎チンポですわね…っ！♡
でも、私はそんな惨めな坊やのおチンポが大好きなのです…！♡

(激しく手コキ)

そうら、ちゅこちゅこちゅこちゅこッ！♡
私が優しく扱きまわしてあげますからねっ！♡
毎日私の下品でクソ汚いお小水を飲ませた熟成ガキチンポッ！♡
ほお～ら、シコシコしてあげますからっ、さっさとビュルビュルおもらしなさいッ！♡う
ふふ…♡
んう…っ♡ちゅっ、ちゅっちゅう～っ♡んふう…っ♡
…おや？♡どうしましたの？♡
目がトロオンとして、お口もだらし無く開いたままになっていますよ？♡
え？♡もうイク？♡限界？♡

(囁き)

うふふっ、よっわあ…！♡
やっぱり、雑魚おチンポ…♡
よわよわの、赤ちゃんチンポ♡
この程度の手コキに負ける、最弱おチンポ♡
ほらいケッ、クソ雑魚ガキチンポ♡
ご主人様から大好きなキスされながら、シコられて、ガチイキ汁おもらししろっ！♡
ん、ちゅぶっ、ちゅ…ぢゆるるるるっ！♡
ふはっ、さあ、出せ、イケッ、イキ狂えっ！♡
ほらいケッ、イケッ、いっちゃええ～～～ッッ！！♡
(囁きここまで)

(射精)

はあい、びゅっびゅっ♡どっびゅん、びゅくくく～ッ！♡
おほッ！♡すっごおい勢い…っ！♡
見てくださいませ、こんなに…たくさんっ、びゅくびゅく出て…っ！♡
んっ、ちゅっちゅる…ッ♡んう～…っ♡

(ディープキス 10 秒ほど)

ちゅっ…んっふふ、ふふふふ…！♡
やっぱり、好き、大好きい～っ…♡

ね、坊や、まだ出来ますか…って、あら？
もう、疲れ切ってしまったのですか？
まあ、なんでだらしのない…！
この程度の手コキで音を上げるような者を召使いに選んだつもりはありませんわよ？
あぁっ、もう眠たそうに目をこすって…！
まったく、主人の許可なく寝てしまうなんて、礼儀のなっていない召使いですわね…！
……で、でも…そういう所も、なんだか、愛おしく感じてしまいますわ…っ♡
……うふ♡
私、まだまだ満足していませんのよ…♡
おマンコが濡れそぼって、ケツ穴がむず痒くて、堪りませんのよ♡
なのに、坊やはそんな主人を放って寝てしまおうと言うのですか…？♡
そんな悪い召使いには、おしおきが必要ですわね…？♡
そうだ、こうなったら…♡
坊や、そのままじっとしててくださいまし…っ！

(主人公の顔の上に跨る)

…ほおら、見えますか？♡
私のおマンコ♡
高貴なる、姫マンコ♡
うふふ♡眠いというのなら、勝手にお眠りなさい♡
ですが、私はまだまだ満足していません♡
なので、坊やの顔を勝手に使って、オナニーさせていただきます♡
姫のオナ道具になれること、光栄に思いなさいっ…！♡
…うふ♡逃げられないように、顔を抑えて…ゆう～っくり、腰を降ろしてえ…っ♡
んう～…ッ！♡

(跨り、顔に腰を降ろす)

はあ、はああ…んっ！♡
んひっ！♡ほっ、おおお…ッ!?!♡
んん～っ♡んっ、ふう～～ッ♡
いい座り心地ですわぁ…♡
お鼻はマンコ♡お口はアナル♡
まるで特注したかのように、私のエッチなところにぴったりフィット♡
んふふふふふ♡私、分かっただけですわ♡

坊やは、私のために産まれてきたのですね♡

そうとしか思えません♡

私好みのカワイイお顔♡私好みの小さなチンポ♡私好みの、幼くて未熟で弱々しい身体…
ッ！♡

ぜんぶ、ぜええ～んぶ♡私の玩具になるために産まれてきたようなものではありませんか
…！♡

おほっ、おほお…っ！♡あっ、ああ、イク…ッ！♡

おマンコ汁が止まらない…っ！♡

だめえ…腰、勝手にい…♡

(姫、腰を動かす)

はあんっ、んうっ♡んうっ！♡ふうっ！♡

ちょっと動かただけで、こんなにはしたなく乱れてしまいますっ！♡

んおおッ、止まりませんっ、腰っ、腰があっ♡

マンコぐちぐち止まりませんっ♡坊やの顔面使ってオナニーっ、さいこおッ！♡

あっ、も、もうイクッ♡イツちゃうッ、んっぐうう～～～ッッッ！！♡

(絶頂)

んんんッ、ほへっ、おお…ッ♡

んふふ…♡

坊やのお顔、私のお汁でビッショビショ…♡

可愛いですわあ♡よしよし…♡

んふ♡

それじゃ次は、坊やの方から私にご奉仕してもらおう事にしましょう♡

拒否権などあるはずがございません♡

ほら、舌を出して私のマンコでもケツ穴でも好きな方を舐めてくださいませ♡んっふふ
…♡

ね？♡坊や、早く舐めなさい…♡

ほおら、はやく、はやくうッ…♡

(クンニ開始)

んふっ、おおっ!♡ふふ、ふふふふふっ♡

そうですっ、犬みたいに、ペロペロとお…ッ♡

うふふ、あんっ…♡

マンコもケツ穴も同時に舐め回すだなんて、なんて器用でいやらしい…♡

そうっ、んっ♡そうよっ♡うまいわあ…♡！♡

あひっ、ああっ！♡そこお…♡！♡んううっ♡ほ、ほら！♡もっともっど舐めてっ！♡

私の一番エッチな所にキスをしてっ！♡

んふっ、ほおお…♡！♡♡

(放屁)

おっ!♡ごっ、ごめんなさいっ！♡

ん、んふっ、ふふっ、ふひひっ…♡！♡

思わず屁が出てしまうだなんて、私も少し興奮しすぎてしまったようですわね…♡

おほ…♡！♡

んっ、ふふっ♡く、くさい？♡臭い？♡臭いですか？♡

あははっ♡そうですよねっ！♡

臭いはずです、私のオナラの臭いは強烈ですもの♡

…でも、そんな臭いを、好きになりなさい♡

私の全てを、好きになりなさい♡

貴方は、私の家畜♡私の所有物…♡

私の、可愛い、玩具なのですから…♡！♡

んっ、ほっ、おおっ…！♡

またくっさいの出しますわよっ！♡ほおおっ!!♡♡

(放屁)

はあッ、はあッ、はああ〜〜…♡ツツ！♡

や、やりすぎたかしら？♡あははっ、坊やの足ピンッてなっちゃってるじゃないですの♡

うふふっ、本当に面白い子…♡

ほおら、おかわりですわ、よっ！♡

んうっ、ほおお〜〜♡！!♡

(放屁)

はあ、はああ…♡！♡こら、逃げないの♡

まだ許しませんよ、もっと辱めねば気が収まりませんわ…♡

おひっ♡ほおおおっ♡！♡

ほっ、おうっ！♡んおっ、ほおっ！♡んおお〜〜〜ツツ！！♡

(放屁)

はああ…っ♡

きんもちいい〜〜〜ツ！♡

坊やのお顔にオナラ擦り付けるの、癖になりそうですわっ！♡

ほおらほら！♡もっともって舐めて綺麗にしてください！♡

私のお尻の穴を舐めて、嗅いで、もっと気持ちよくなってしまいなさいっ！♡

(クンニ再開)

あ〜ツ、もうイク、イクツ♡

でっかいアクメきますわっ♡

ほっ、おおおお〜〜ツツ！♡

はあ、はあっ…♡

んんッ!?♡

(腹痛)

んふ、あっ、はあ…ツ♡

ね、坊やあん♡

坊やのお顔、便器にしてもよろしいかしらあ…？♡

いいえ、坊やは私のもの…ツ♡私の所持物なのですわ♡

だからお顔を便器にするのも当然、許されるはずですよね…？♡

あは、あははっ♡

もがくなっ！♡逃げるなっ！♡じっとしてなさいっ！！♡

(放屁)

おほッ、おおお〜〜〜ツツ！！♡

んふふ、ごめんなさいっ！♡でも、もう無理ですのっ！♡

坊やのお顔をお便器にする妄想したらっ！♡

ぜえ〜ったい気持ちいいって分かってしまいましたもの♡

んんっ、ほおおお〜〜〜ツツ！！♡

いひひい♡うひひッ！！♡

ああイクッ！♡イキますわっ！！♡

坊やあっ！♡あなたもいっしょにいくことを、許してあげますッ！♡

糞に埋められて精液を漏らしなさいっ！♡そして、私の便器になることを、光栄に思いなさいっ！♡

あゝ あッ！！♡イグッッ！！♡

イグイグイグイグッ、クソひり出してッ、イググううう~~~~~ッッッ！♡

んッ、おオオオオオオオッッッ！！♡

(脱糞、射精)

あッ、きたっ！♡でりゅっ！♡クソでるっ！♡

坊やのお顔便器に、ぶっといウンコ出るううううう~~~~~ッッ！！♡

んひ、ほおおおお~~~~…ッ!♡

(脱糞)

ブリブリっ、ブリユウっ！♡

ふっ、ほお…っ♡

ウンコ…っ♡私、クソひりだしてえ…ッ！♡

んほっ、ほほおおおお~~~~…ッッ！！♡

幸せですわあ…♡ ああっ、クソ穴ッ♡

糞穴が幸せすぎて…っ♡ほひっ、ほひひ…っ♡

またッ、いグうううう~~~~~ッッ！♡♡

(絶頂)

あ、あっはあ…♡わ、我ながら…なんて、下品な鳴き声なのでしょうか…っ♡

まるで発情期の豚…ですわあ…♡んほほおお…♡

ふーっ、ふーっ♡ほひっ…♡

で、でも、と、とても…気持ちいいですわあ…♡

んんんッ♡

(脱糞終了)

はあーっ、はあーっ、はあーっ…♡

んんっ、はあ…ッ♡

…あら？♡
あらあらあら♡
坊や、死んでしまいましたか？
ほおら、起きなさあ〜い♡
ふんっ！♡

(放屁)

あははっ♡よかった、生きてました♡
この程度で死んでしまっは困りますもの♡
気持ちよかったですわ、坊や♡
坊やも…んふふ♡
ウンコぶちまけられて精液お漏らししていますわね？♡
しばらくそのまま寝ていなさい♡
今日は私が後片付けをして差し上げます♡
私は今、とっても気分が良いですもの！♡
なぜか分かりますか？♡
んふふ、だってえ…♡
…大量のウンコで、坊やをマーキングできましたから♡
もう私の臭いと熱を、貴方は忘れられません♡
一生、私のモノとして生きていくのですよ、坊や♡
結婚なんて許しません、一生私の玩具、ディルド、肉便器…♡
あははっ♡これからもよろしく頼みますわよ…っ！♡
可愛い可愛い、私の坊や…♡

第五章『快便姫様のラブラブケツ穴交尾』

(アリシアの許嫁の隣国王子とのお見合いにて)

へえ…やはりハイメル王子は博識でございますのね？

確か、王子の治めるガリア国は様々な学問で有名でしたね？

そんな国を治める王子もまた、多くの知識を身に付けていらっしゃるのですね。

私の知らないことを王子は多くご存知ですので、お話をされていてとても楽しゅうございます。

(不本意そうに)

…私の許嫁に相応しいお方だと、そう思いますの。

(ここまで)

(隣国王子からのセクハラ質問)

…私の身体について、教えて欲しい？

……それは、どうしても必要なお話なのですか？

私の執事も同席しておりますし、そのようなお話はもう少し深い仲となってからでもよろしいのでは無いですか？

…妻となる女の身体は知っておきたい…ですか。

(小声で)

…チッ、その汚い面でもよくもそんなことを。

(ここまで)

いえ、なんでもありませんわ。ならばお教えいたしましょう。

まずこの大きな胸のサイズが、113cm…。

そして、ウエストは、58.5cm でした、ヒップが、102cm ですわ。

(小声で)

…ふん、途端に鼻息を荒くして、本当に気持ち悪いですわね。えっ、ヤダヤダっ、なんで近寄ってきて…！

(ここまで)

(隣国王子、姫に近寄ってくる)

お…王子？

どうかされましたか？

(隣国王子、服を脱ぐ)

…ひっ!?

きゃあああッ！

なっ、なにをなさっているのですかっ!?

なっ、なんで服を脱いでっ…！

いやっ！ いやあ…ッ！

…ッ!!

(姫、隣国王子にビンタ)

も、もう限界ですわっ！

許嫁など知ったことですかっ！

私は貴方のような汚いオス豚と婚姻を結ぶ気なんて毛頭ありませんっ！

さっさとその汚いモノを取めて自国へ戻りなさいっ！

ほら坊やっ、行きますわよっ！

…何をオドオドしているのですかっ！

私はこのオス豚と同じ空気を吸うことすら嫌ですっ！

今すぐこの部屋から出て、私の自室へと戻りますわよっ！ ほらさっさと来なさいッ！

(足早に部屋から出ていく)

(数分後、姫の自室にて)

(姫、ベッドにダイブする)

ふー…スッキリしましたわ…！

きっとお父様には怒られてしまうでしょうけれど、それでもすごく良い気分ですわ！

…どうしたの、坊や。そんなに心配そうな顔をして。

大変なことになると、そう言いたいのですか？

…許嫁の王子を侮辱し、あまつさえ暴力を振るってしまった…。

…言われてみれば、確かに、そうですわねえ～。

でも、我慢ならなかったんですもの。
それに、あれは王子が失礼極まりないことを私にしたから仕方のないことでしょうか？
…それでも、あれはやりすぎ？
…まあ、確かに少々手荒かったかもしれませんが。
でも、あそこまでのトラブルがないと、許嫁というものは解消できるものではありません。
学のない坊やは知らないかもしれませんが、王家同士の許嫁というものは余程のことがないと解消できるものではないのです。
…いいえ、なんならあれでも解消には至らないかもしれません。
あの王子と私の婚姻は、我が王国と隣国の友好関係を築くことを目的としたもの。
そう簡単に許嫁解消、とはならないはずですよ。
一応は向こうに非があるはずですから、あと数分もすれば向こうから私の部屋に謝罪に来るはず…。
ですが、私には、王子のその謝罪を拒絶することは許されません。
私が謝罪を受け入れたのなら……婚姻の約束は、何も変わりません。
……そうです、それならいっそ…！
……ねえ、坊や。
私、あの王子が嫌いなんです。
あの王子の女には、なりたくありませんの。
だから…
私を、貴方の女にしてみませんか？♡
…んふふ♡
なあに、簡単なことです♡
私と坊やがそういう関係にあると、王子に見せつけてやるのです♡
坊やに抱かれてよがり狂う私を見たら、あの王子はどんな反応をするんでしょうねえ？
怒り心頭でしょうか？
それとも、驚きのあまりショック死してしまうかも♡
どちらにせよ、婚約は解消間違いなし…！
ああ…なんて素敵なアイデアなのでしょう！♡
さあ坊や、早く服をお脱ぎなさい♡
そして、私の身体を思う存分に抱いてくださいまし…♡

(主人公、拒否する)

…んふふ♡そんなことはできない、ですか。
でも、口では駄目だ駄目だと言っているけど、身体は素直ですね♡
もうこんなにおっきくして…っ♡

私も、滾ってきてしまいますわあ…っ！♡

(服を脱ぐ)

ほおら見てください♡私の、おマンコ♡

坊やが欲しくて欲しくて、もうびしょびしょになってしまいましたわ♡

…あら？♡ あらあらあらあらっ！♡

ますますビンビンに♡

…ふふっ♡

坊やのおちんちん、初めて見た時より少しだけ大きくなっている気がします…っ♡

私の毎日のションベン水やりが効いたのでしょうか？♡

うふふふ…♡

えいっ！

(主人公を押し倒す)

ねえ、坊やあ♡

私、もう我慢できませんわ…♡

お願いします、私を助けると思って…ね？♡

私の、いやらしく熟れたおマンコを…坊やのそれで、貫いてくださいまし…ッ!!♡

(主人公、ペニスをアナルにあてがう)

んんっ…♡応えてくれるのですね、嬉しいですよ…♡

で、でも…ぼ、坊や？

そっちの穴は、お尻の穴ですわよ？♡

私は、そのっ…お尻の穴の方が、もちろん好きですが…っ♡

愛し合う夫婦は、おマンコに挿れるものですっ！♡

私の望みを理解していることは偉いですが、入れる穴を間違えないでくださいましっ！♡

(主人公、ペニスを膣口にあてがう)

…んっ、そ、そう、そっち…♡

あっ…♡そのまま、そう、遠慮せずに、ぐいっと…！♡

(挿入)

おツツツほお…っ♡

き、きたあ…ツ！♡おっ、くうう…ツ！♡

ぼ、坊やの可愛いおちんちん、私のヌルヌルおマンコに、入っちゃいましたわあ…ツ！♡

おかしい、ですわっ！♡

前にひとりで弄った時は、こんなに気持ちよきは、ならなかったのに…ツ！♡

坊やのちっちゃいおちんちんで、な、なぜっ、どうしてっ…こんなにもっ…!?♡

…あっ！♡

…ぼ、坊や…♡

…そういうこと、でしたのね…♡

私、本気で、本気で坊やとの赤ちゃんを、孕みたいと思ってしまったから…っ♡

だから、おマンコが、勝手に濡れて…ツ♡

…ふふっ♡

……ね、坊や？♡

(囁き)

そう緊張しては、みっともないのですよ？♡

ほら、王子に見せつけるセックスなので、もっと雄々しいところを見せてくださいまし♡

大丈夫♡私は坊やを、ちゃんを受け止めて差し上げますから♡

だから、ね？♡安心して、腰を振ってくださいまし…ツ！♡

(ここまで)

(ピストン開始)

んっ、おッ♡ほおっ！♡

あっ、あああ～…ツ！♡

き、来たあ…♡坊やの、おちんぽお…っ♡

おっ、おほッ、おおお…っ！♡

かわいい…必死に歯を食いしばって、んんっ、腰振りい、頑張っ、いますのね？♡

ふふ、ほら、もっと私に抱きつきなさいっ♡

…んっ、ちゅっ、ちゅぼっ…♡

じゅるっ…ふあっ♡

私の愛しい、可愛い坊や…っ♡

ほら、もっと激しく舌を出してくださいまし…ツ！♡

(ディープキス 10 秒ほど)

んふふ、れろお…ぢゆるるる…っ♡

じょ、上手ですわ、その調子ですわよ…ッ！♡

ほ、ほら、キスをしながら、私のおマンコの奥を耕すように、腰を動かしてくださいな…
ッ！♡

(ピストン加速)

んんっ!?!♡

そう、そうですわっ♡その調子っ♡

もっと、もっと激しく…ッ！♡

んほおっ！♡おっ、おおお～…ッ、んじゆるるるるっ…♡

れろっ♡じゅばっ♡

んふっ、ふふっ、んふふふ…っ♡

突くたびに、先っぽになにかがっ、吸い付いているのが、分かりますか…?♡

それが、私の赤ちゃんのお部屋ですのっ♡

坊やおちんちんが、そのお部屋に、キスしているのですわっ♡

赤ちゃんのお部屋っ、坊やが愛おしくて、お迎えに降りてきているのですっ♡

本来ならっ、高貴なロイヤルおマンコがお迎えに来るなど、ありえないことなのですよ
っ?♡

…んふふっ、でも坊やは特別♡

だって私は坊やの女で、坊やは私の男なのです♡

ほーら坊や♡おててをぎゅって握って♡

もっと強く、激しく腰を振ってくださいましっ♡ 私の赤ちゃんの部屋を、坊やの愛でいっ
ぱいにしてくださいまし…っ！♡

(ピストン加速)

んほおッ!?!♡おッ、おおお…ッ!!♡

いひっ、いひいいっ！♡

赤ちゃん部屋ッ♡ノックううッ♡ノックされてますっ♡

子宮、叩かれてますわっ♡ああ、ダメダメダメえ…ッ！♡き、気持ちよすぎますわっ♡

あっ、あっ、あひいいッ！♡

坊やっ、すきすきすきすきっ♡ほらキスッ、キスしなさいっ♡

んちゅ、んじゅるるッ、んぢゅううっ！♡も一つと舌出してえッ♡れろれろお〜…ッ！！♡

(ディープキス 15 秒ほど)

ほおおおッ♡んぐっ、んぐううッ♡

もっ、もうイきますわっ♡坊やのおちんちんでっ、イきますっ♡ほおおおっ！♡

おッ、おおお…ッ！♡

もっ、もうダメっ♡

いくっ、いきましゅっ！♡

いくいくいくううう…ッ！♡

(絶頂)

んほおおお おおおおおおおおお〜…ッッ！♡♡

ッ、はっ、はあっ、はあっ…！♡

お、おおお…ッ！♡…しゅ、しゅごいですわ…ッ♡坊やのおちんぽお…ッ♡

な、なんて優秀なおちんちんですのおっ！♡

き、気持ちいいところを、ピンポイントで突いてきてえ…ッ♡

だっ、誰に仕込まれたんですっ…♡

こんな、女たらしの、ヤリチンおちんぽっ♡

メイド、メイドの誰かですかっ!?

こっそりメイドを抱き潰して練習していたんでしょっ!?

じゃないと有り得ませんわっ♡

この私が、坊やにイカされてしまうなんて…ッ！♡

くう…私のなのに、坊やは私のものなのにいっ…！♡

先につまみ食いするなんてっ、嫉妬ッ、嫉妬してしまいますわっ…！♡

…へ？♡坊や、今なんて…っ？♡

えっ、それは、えっと…♡

私の反応を見ながら、気持ちよさそうなところを重点的に責めたと、いうことですか？

…普段から、気持ちいい時の反応は、よく知ってるから、と？♡

はあんっ…坊やあぁっ♡

…もうっ、もーうっ！♡

そんなの、反則ですわぁっ!!♡

も、もう、坊やっ！♡

私、ますます坊やとの赤ちゃんが欲しくなっていましたっ！♡

王子を騙すための偽物セックスではありませんっ、本気っ、本物のセックスがしたくなっ

てしまいましたのっ♡

だからっ♡

だからもっと激しく、私のおマンコに、種付けしてくださいましっ♡ ほら、もっと腰振りを速くしてっ!♡ 私の子宮に、直接子種を注いでくださいましっ!♡

ほらっ、早く、早くするのですっ!♡私の赤ちゃん部屋を、坊やの愛でいっぱいになさいっ!!♡

(ピストン再開)

んっぐうううっ!?!♡

くっ、弱点っ、ばっかりいいっ♡

こんのおっ、生意気っ、ですわっ!♡

坊やのクセにっ!♡このっ!♡

このこのこのお…っ!♡

す、好きに、なってしまいますわっ、ますますうっ!♡

こんなっ、私のきもちいいとこばかり、責められたらっ♡

坊やの私に対する想いが、ガンッガン伝わってきてええっ…っ♡

坊やっ、すきっ、すきすきっ、大好きですわあっ!♡

ずっと、ずっと私の側にいてくださいましっ!♡

ずっと私と添い遂げてくださいますい…っ!♡

…あっ、あひっ、んぎいいいっ!?!♡

(絶頂、放屁)

おっ…いきっぺえ…♡

気持ち、良すぎてっ…♡

オナラ、ぶっこいて、イってしまいましたわあ…♡

んほっ、ほっ、ほおっ、ほおお～…っ!♡

やばっ、やばいやばいやばいいいっ!♡

あっ、あっ、あああっ!!♡

またいきますわっ、赤ちゃん部屋ノックでいきましゅううっ!!♡

あゝ あああああああああ～…っ!!♡

恥ずか、しいいっ♡いくと、オナラ、漏れてえっ♡

んほおっ、おっほおお～…っ!?!♡

すきいっ、すきすきすきすきっ!♡

坊やっ、何をしていますのですかっ♡

姫のすきすきラブコールにはキスで応えなさいと、いつも言っているでしょうっ!?♡
ほら、早く、キスッ、キスしてえっ!♡

(ディープキス 15 秒ほど)

んちゅっ、んじゅるるるっ!♡
ちゅばあ…っ、れろっ、れろれろお～…♡

(ノック音)

ん、ふはあっ、来たあっ♡
ほおら坊や、あのオス豚が、私たちの愛を邪魔しようとしていますわっ!♡
見せつけて、やっつけてしまいましょッ♡
ラブラブセックス見せつけてっ、あのオス豚に、私たちの愛を見せつけてやりましょっ!
♡
…んふふっ♡いいお返事ですわ♡
それじゃ、呼びますわねえっ?♡

良いですわっ♡入ってきなさあ～いっ♡

(王子、入室)

んひっ、んひいっ!♡おっ、お` おっ、お` おおおおお` お…ツツ!!♡
ほおっ、お` ツ、お` おおお…ツ!♡
イっでるっ、イっでましゅわっ、坊やあっ!♡
もっど、もっと強くしてえっ!♡
私の赤ちゃん部屋、もっと強くノックしてくださいましいい…ツ!♡
んんっ…ごきげんっ、ようっ♡王子♡
何か、用ですか?♡
見ての通り…あっ、そこすきっ♡
私と、坊やは、愛し合っていますよっ!♡
邪魔をしないでッ、いただけますか?♡
……え?♡
これは一体どういうこと、ですか?
それはですね…んひっ、んひいっ!♡
あっ、あ` ああああ～～ツツ!!♡

んふふっ♡私はッ、この可愛い坊やの女になってしまったのですわっ♡
貴方のようなッ、汚らしい不細工なオス豚王子ではなく、この可愛らしい坊やとッ♡
私は子作りセックスしたいんでしゅのお…ッ！♡
ほおおゝ おっ!?!♡
んっ、ぢゅるるるるッ♡
だっ、だめですわっ、不意打ちラブラブキスは反則うっ…♡
んちゅっ、ちゅぱっ、れろれろっ、んじゅるるう…っ！♡
あっ、いきそっ、またイきますわ、私…ッ！♡
んっ、ほおおおッ♡
あっ、あらっ?♡王子、まだそこにいたのですか?♡
邪魔ですからっ、早く出て行ってくださいまし?♡
坊やあんっ♡
このオス豚の吸った空気と同じものは、私吸いたくありませんのっ♡
だからほらっ、キスっ、キスしてっ、私に坊やの空気をくださいましッ♡
んちゅっ♡んちゅるるっ、んじゅるるるっ！♡

(小声、囁き)

…んふふ♡
さ、そろそろフィニッシュといきましょうか、坊や♡
ほら、もっと強く、激しく腰を動かしてくださいましっ!♡ 私の赤ちゃんのお部屋に、た
っくさん種付けしてくださいまし…ッ!♡
(ここまで)

(ピストン激しく)

んおゝッ!?!♡おゝ おおおおお…ッ!!♡
いくっ、イきますわっ!♡
坊やのちんぽで、姫の子宮がノックされてイっちゃいますわッ!♡
ほおらそのクソ豚王子ッ♡
よォく見ていなさいっ!♡
この私が、こんな幼い坊やのちんぽでいくところをッ!♡
そして、私の子宮に、坊やのこゆうい子種汁が注ぎ込まれるところをお…ッ!!♡
ほおおゝっ!♡くるッ、くるくるっ、イきますわっ!♡
坊やのちんぽでっ、イきましゅっ、坊やっ、坊やあぁっ!♡
好きっ、好きすき好き好き好き好きいい…ッッ!♡
孕ませて、くださいましいい…ッッ!♡

(射精、絶頂、放屁)

んお^ゝ おおおおおお〜〜〜〜〜…ツツ!!♡
…んひっ♡ほひ、おおお…っ♡
おひっ♡ほおおっ、ほおおおお…ツ♡
はぁいい…妊娠、確定でございまひゅわぁ…♡
こんな、濃厚で大量な子種ッ汁う…♡
絶対に卵子ぶち犯されてっ、妊娠しましゅわぁ…♡
あぁ…坊やぁ…♡キス、してくださいませ…♡

(ディープキス 15 秒ほど)

んちゅっ♡ちゅぱっ♡れろっ、えろえろお〜…♡
んっ、好きっ、大好きですわ、坊や…♡私の、愛しい、可愛い坊やぁ…っ♡

(王子、逃げ出す)

あ…ふふ♡
王子、逃げるようにお部屋から出ていきましたね?♡
これで晴れて許嫁解消♡は一、良かったですわ♡
よく頑張りましたね、坊や♡
そんな坊やにはご褒美を、あげますわね♡
ほら、坊やのちんぽ…♡
まだまだ元気で、私を求めてビクビク震えています…♡
んんん………ツ♡

(ペニスを引き抜いてアナルにあてがう)

さぁ、今度はこっちの穴で、坊やのちんぽを可愛がってあげます♡
そう…私の立派なデカケツのど真ん中♡
このクソ穴に、坊やのおちんぽを…くださいませ?♡
んふふっ♡さぁ、坊や♡
一緒に、気持ちよくなりましょうねっ!♡
あっ、入るっ、入るっ、入っちゃいましゅわ…っ♡
せまいケツ穴ッ、押し広げてっ、坊やのおちんぽが入ってくるう…っ♡

ほおっ♡おっおっおっ…♡
んひっ♡ひぎいいいいいッ♡
あゝ あああああああ〜〜…ツツ！♡♡

(アナル挿入)

ほっ、ほへ…ツ！♡ほっ、ほおっおっおっ…ツツ♡あへっ、おゝ おっ…♡
ほおっ、ほおっ、ふひいいいいい…ツ♡
ぼ、坊やあ…♡んふふ♡
ほおら…私のケツ穴、どんな心地か、教えてくださいまし…？♡
ちんぽをずっぱり啜え込んでっ、離さないでしょうっ？♡
だって、だって坊やのちんぽっ、気持ちいいんですものおっ♡
おっ、おっおっおっ…っ！♡
私のケツ穴の奥うう…っ！♡
グリグリってえっ、おっ、ほおおゝ おお…ツ！！♡
あゝ あああああ…っ！♡こ、これしゅきっ、このちんぽしゅきっ！♡
ほらっ、突いてっ、くださいましいいい…ツ！♡
私気持ちよすぎて、腰が抜けて…っ♡
だからあ、貴方が突き上げて…っ♡
ケツ穴っ、エグってくださいいいいッ♡

(アナルセックス開始)

んほおおゝ おおっ!?!♡
あっ、あゝ あああああああ〜〜…ツツ！♡
んほっ♡おゝ おっ、おゝ おっおっおっ…ツ！！♡
は、激しすぎっ、ですわあッ♡
きったねえオホ声っ、漏れるう…ツ！♡
でもお、気持ちいいんですものっ♡
どうしようもないでしゅわあ…っ！♡
ほおおゝ っ♡おゝ おっ、おゝ おっおっおっ…ツ！！♡
んひっ、んひいいいいい…ツツ！♡
あっ、んぐううッ！♡
くるっ、くるっ、きちゃいましゅわ…ツ！♡
ケツ穴アクメえ…ツ♡
坊やのちんぽで、イカされるう…ツ！♡

ほおお` おっ、おおおおおおおお…〜〜〜ツツ!!♡

(ピストン停止、絶頂、放屁連発)

んほおおおおお…ツ!♡

オナラっ、ぶちまけてっ、ケツ穴アクメツ♡

坊やのチンポに可愛がられてっ、ケツ穴、溶けりゅうう…ツ!♡

(ピストン再開)

ほおっ、お` おおおお…っ!♡

あ` ああああ〜…ツ!!♡

んひひひひひひ…ツ!♡

はひっ、はへえ…っ♡

坊やっ、すきっ、すきっ♡

ほらっ、早く私を抱きしめなさいっ!♡

坊やの愛を、私に思い知らせてやりなさいっ♡

(強くハグ)

あ` ああああああ…ツ!♡

好きっ、大好きですわあっ!♡

んちゅっ♡んちゅっ♡ちゅばっ、れろれろお〜っ!♡

あっ、んほおおおおお…ツ!♡

坊やのちんぽっ、ますますおっきくなって…ズポズポって穴の中ほじくってくるうっ♡

おっ、おっおっ、おおおおおお…っ!♡

あっ、おっ、おほっ、おほおおおお…ツツ!?!♡

おひっ♡んひっ♡ほひっ♡

あ` ああああああ〜〜〜〜〜…ツツ!!♡

(絶頂、放屁連発)

ほおっ、んほっ、ほおお…ツ♡

オナラ、連発うっ…♡

ほおっ、ほおおっ、ふひゅう〜…ツ!♡

坊やあん♡

結婚したらっ、毎日、ケツ穴耕しセックスっ、しましうねっ？♡んんうっ！♡
へ…？♡

結婚なんて、できない…？♡

姫である私の夫は、自分ではふさわしくないと、そう言いたいのですか…？♡

ふふ、お馬鹿さんですね、貴方…っ♡

そんなのっ、些細な問題ですわっ♡

だって好きなんですものっ♡貴方が、好きっ、好きなんですの…ッ！♡

愛しているんですのよっ、私の可愛い坊や…っ♡

それが分からないというのなら、坊やのチンポに思い知らせてやる必要がありますわね？

♡

…んふふ♡

私、いいことを思いつきましたの♡

坊やのチンポ、私のラブラブ告白溺愛ウンコで可愛がって差し上げます♡

そうしたら、少しは私の想いが理解できるのではなくて？♡

ねえ、坊やぁ…まだまだザーメンは、出せますわね？♡

ならっ、私のウンコに向けて種付けしてくださいまし♡

私の想いを受け止めてくれたのならっ、坊やもすきすきザーメンびゅっびゅで応えてくだ
さいましっ♡

さぁ、これからは私も、本気の腰振りときスをして差し上げますっ♡

途中で子種を漏らすようなことをしたらっ…私、悲しいですからっ、頑張っって耐えてくだ
さいねえ…ッ！♡

いきますよお～…ッ！♡

あああ～～むっ！♡

(激しいディーブキス 30秒ほど、時折「すき」と言いながら)

ちゅっ、ちゅばっ…♡

あゝ ああああああ…っ!?!♡

んっ、くるっ、くるくるくるくるッ♡

ウンコ降りてきたッ♡

おゝ おおおおおお…ッ!!♡

(ピストン加速)

んちゅっ♡んちゅっ♡

ちゅばっ、れろれろっ、んじゅるるう…ッ！♡

すきっ、んちゅっ♡
好き、好きいつ、ちゅうう…ッ！♡
んひっ、んひいいいッ♡
あ～でるっ、でるう、出ちゃいますのおっ♡
クソッ、クソがでますっ、坊やあっ♡
坊やもお、もう限界でしょう？♡
ならっ、出してくださいませッ♡
私のクソに、たっぷり子種を吐き出してくださいませっ♡
あっ♡あっ♡あっ♡あっ♡ああっ！♡
イクッ、でるっ、告白ウンコでるっ！♡
坊やあっ♡
すきすきすきすきすきッ、だいすきいいいいい～～～ッッッ！！♡

(射精、脱糞、絶頂)

んひっ、んひいいいいいいい…～～～ッッ！！♡あゝ ああああああ…ッ！♡
でりゅっ、出るっ、でてましゅわあああ…ッ！♡
あっ、あっ、あゝ ああああああ…～～～…ッッ！！♡♡
きしゅう…坊や、キッスを、お願いしますわあっ♡
早く、はやくう…んちゅっ♡
ちゅばっ♡
れろおっ、んじゆるるるう～…ッ！！♡
すき、坊や、すきすきっ、大大大好きッ！♡
んひいいいい…ッ！♡

(ディープキス 15 秒ほど、時折「んんっ」といきみながら)

んっ、はああ…♡
んんんんっ…！♡

(放屁、脱糞終了)

はあ…はあ…んっ♡
…んふふっ、どうでしたか？♡
私の愛を…たっぷり感じて、もらえまして？♡
あはっ、坊やのちんぽも満足してますわね♡

私のウンコに、こんなにザーメンを絡みつかせて…♡

私の想いに、応えてくれたのですね…♡

とっても、嬉しいですわ…♡

あっ…んふふ♡

流石に疲れて、眠くなってしまいましたね…♡ ええ、もちろん良いですわ…♡

私もこうして坊やを抱っこしたまま、お昼寝がしたい気分ですもの♡

このまま、二人で寝てしまいたい？♡

後片付けは、その後でも良いでしょうか？♡ね？♡

んふ♡そう言ってくれると思いましたわ♡

それでは、おやすみなさいませ♡

私の可愛い坊や…ちゅっ♡